

# 人郷夢

## ストーリー

このコーナーでは、まちづくりなどの活動に取り組んでいる市民の方やグループにお話を伺い、活動内容や活動にかける思いをシリーズで紹介していきます。

αリノレン酸がたっぷり含まれる、田村市ゆかりの作物——エゴマ。

今回は、そのエゴマの振興に取り組んでいる船引町生活研究グループ協議会会長 **紺野敏子さん** と同協議会エゴマ部代表 **根本君江さん** にお話を伺いました。

### エゴマにかける思い

平成11年、日本エゴマ全国サミットが船引町で開催され、エゴマの効能の研究成果が見直されました。エゴマに含まれるαリノレン酸などの必須脂肪酸には、健康の維持に効果があるというのです。

それを機に、私たちも本格的にエゴマの栽培を

始めました。今では、栽培するだけでなく、契約農家からエゴマを買い取り、選別・洗浄・乾燥・搾油・販売までも一手に行っています。

私たちが育てているエゴマはもろろんのこと、買い入れているものもすべて無農薬で、化学肥料も使用していません。

活動を始めた当初は、エゴマの栽培方法を尋ねるため、農家の方々を訪ねて回ったこともあり、そのこだわりが、美味しいエゴマ商品の人気を支えていると思っています。

でも、これまでにエゴマにかけてきた熱い思いを胸に、販売の再開に向かって活動しました。まず、土壌や収穫したエゴマの放射線量を検査し、安心・安全を訴えました。それでもなかなか風評被害は払しょくされず、売れない日々が続き

ました。つらく、やりきれない思いも味わいました。それでもあきらめずに活動を続けた結果、少しずつ「田村市のエゴマが一番」と言ってくれるお客さまが戻ってきました。最近ではテレビでも取り上げられ（関連記事15頁）、震災前以上の問い合わせが来るまでに回復しています。

### エゴマでつなぐ笑顔の輪

これまで、エゴマの振興のために、文化祭や田村富士ロードレース大会などのイベントで、エゴマを使った料理を提供してきました。美味しいと言って笑顔で食べる子どもたちや、作り方を教えて欲しいと言ってくれる人たちがいたからこそ、私たちも元気に活動を続けることができました。目下の悩みは後継者不足です。自分でエゴマを作り、栽培の過程を体

験し、作ることや食べることの喜びを多くの人に知って欲しいと、思いを巡らせています。ブームもあり、少しずつですが、エゴマを作りたいと声をかけてくれる若い人も増えていきます。私たちがエゴマにかけた思いを受け継ぎ、幼い頃から慣れ親しんだエゴマを守ってくれる人が増えるよう、活動を続けていきたいと考えています。

### 取材を終えて

とても明るく元気なお二人。家事や農作業に忙しい中、良いものを作って届けたいという強い思いで活動しています。何よりも感謝しているのは、一緒に活動している仲間とのこと。長い付き合いなので心が知れ、集まれば笑顔が絶えないそうです。そんな関係が元気の源となり、心

身ともに若々しいのだと思います。この地に根付き、受け継がれた作物、エゴマ。多くの人が自分で栽培し、日常的に食べ続け、健康でいて欲しい——そんな願いが伝わってきました。彼女たちの熱い思いと活動は続きます。（協働まちづくり課・農林課）



エゴマを搾油する様子



エゴマの花



船引町生活研究グループの研修にて



船引町生活研究グループ協議会 根本君江さん（左、船引町遠山沢）と紺野敏子さん（右、船引町中山）